

弟高生が観光プランコンテストを視察

弟子屈高校(木村浩士校長)では、総合的な学習の時間に本町の観光について学び「全国高校生観光プランコンテスト」観光プランコンテスト大会組織委員会主催)に応募する取り組みを行っています。

コンテストは高校生が考えた地元の観光プランを競い合う大会で、今年で7回目。同校は残念ながら本選出場とはなりませんでしたが、来年度に観光の授業を受ける2学年の濱岡日菜さん、更科宏記君、上村沙弥さんが、同校を代表して8月23日に行われた本選の視察に行ってきました。

生徒たちはこの経験を生かして、来年度の観光授業に臨みます。視察に行ってきた3人の感想を紹介します。

あの舞台で地元の素晴らしさをPRしたい

濱岡 日菜さん

私たちは、大阪府茨木市にある追手門学院大学で開催された全国高校生観光プランコンテストの視察に行かせていただきました。

今回の視察の成果は、私たちの中でも大きなものとなりました。

入賞した学校のプランのアイデアは奇抜なものが多くあり、その発想の豊かさに感銘を受けました。そして何より強く努力が感じられた場面は、プラン作成のもとといえる住む町の下調べです。パワーポイントで使用されていた写真のどれにも工夫がされていたし、パフォー

光プランコンテストの本選を、いち早く視察する機会をいただきました。「こんなことをやるんだらうな」という予想はあったものの、どういったカタチで披露されるのかは未知数でした。そういった心持ちで一行は大阪へと行きました。車に乗り、釧路空港・羽田空港・大阪空港と空港祭りで1日目が終わりました。

2日目は、本会場である追手門大学に無事に到着しました。各都道府県から予選を勝ち抜いた高校生の雲集に、息をのみました。北は青森県から南は高知県まで、高校生が自分たちの町をPRします。12分という時間で、いかに自分たちの個性を感じてもらおうとできるか。一つ一つの高校がプレゼンするカタチが誰一人として重なることなく、学ぶことも多く、自分たちの経験値として大きくレベルアップを図ることができました。実際の旅に見立てて行ったり、それぞれの立ち位置を明確にしてストーリーを話す。飽きさせないようにしたり、ちょっとした間にも組み込む工夫が常に新たな情報を入れてくれるので、僕としては悔しいですが、その町に行きたいと思わせてくれます。

魅力がたくさんある

上村 沙弥さん

むしむしと暑い大阪。涼しい館内での視察。初めて見た観光プランコンテスト本選は私の想像とは違いました。

ステージ袖から出てくるのは、金髪カツラやクレヨンしんちゃん、女装をした男性。こんなにも自由なものなのか!! あせんでした。しかし、後々、記憶に残り続けるのは派手な演出をしたチーム。演出ばかりで内容が伝わらないことは避けなければならぬものの、聞き手を退屈させないことを意識することは、とても大切なのだと学びました。

内容はチームそれぞれさまざま。地元の食べ物を観光プランに組み込むところ、観光名所を推すところ、自分たちが

当たり前を真の力にして新たな力を手にしたい

更科 宏記君

今回のこの経験から私たちは、あの舞台で自慢の素晴らしい地元をアピールできるように、準備を進めていきたいと思っています。

3年次に僕たちも行うことになる観



左から濱岡さん、上村さん、更科君

りの観光ポイントを考え紹介するところ。本音を言うと、私たちにはもったいないものがつくれるのではないかと、思いました。それと同時に、弟子屈には他に負けない魅力がたくさんあるのだと考えさせられました。「都会には都会の魅力、田舎には田舎の魅力」。そんな当たり前のことを、あらためて認識しました。観光プランコンテストの雰囲気を知ることができました。目指すべきところを見ることができました。地元のことを考えることができました。ほんの数時間、一気に観光甲子園に対する意欲が湧いたとともに、自分たちのマチについてもっと知ろうと思えました。観光プランコンテスト本選視察は、とてもためになる経験となりました。来年もまた、同じ大阪の地に、本選出場という名誉と共に立てるよう努力したいと思えました。

障がいのある方や高齢者の方などの旅をお手伝い

バリアフリー観光研修会を開催

てしかがえこまち推進協議会ユニバーサルデザイン部会(三木亨部会長)では、バリアフリー観光研修会を開催します。

障がいのある方や高齢者の方などの旅のお手伝いができる方の育成を目的に開催されるものです。ユニバーサルデザイン部会の活動をはじめ、100km歩こうより大会in摩周・屈斜路2015での事例を紹介するほか、三軒茶屋リハビリテーションクリニックの長谷川幹氏を講師に招き「旅はリハビリ」と題してバリアフリー観光に関する講演会を行います。

観光に興味のある方、バリアフリーって何だか難しそう...と思っている方、ぜひ、ご参加ください。バリアフリー観光に対する考え方が少し変わるかもしれません。

- ▶日時/10月31日(土) 13時~17時
- ▶場所/摩周観光文化センター
- ▶対象/町民の方・近隣市町村の方
- ▶申込先/ピュア・フィールド風曜日 ☎4 8 2-7 1 1 1
- ▶申込締切日/10月24日(土)



100km歩こうより大会参加者をサポート

長谷川 幹氏

1948年生まれ。1974年東京医科歯科大学卒業。三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長。福祉のまちづくり活動や高次脳機能障がいの支援など精力的に活動。著書「リハビリ医の妻が脳卒中になった時」など多数。

ユニバーサルデザイン部会って？

「ユニバーサルデザイン」とは「誰にでも使いやすいデザイン」という意味。同部会では主に、障がいのある方や高齢者の方などの旅のお手伝いをする活動をしています。

今年度は北海道観光振興機構のバリアフリー観光地域拠点事業の採択を受け「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを目指して、より一層、活動に励んでいます！上記講座に続き、11月13日(金)~15日(日)に開催される「てしかが観光塾」の選択講座でも、本町のバリアフリー状況やツアーの紹介などを行う予定です。

(てしかが観光塾ホームページ <http://www.masyuko.or.jp/pc/juku.html>)

問い合わせ先

てしかがえこまち推進協議会事務局(役場観光工商課観光振興係内) ☎4 8 2-2 9 4 0(課直通)